

安国寺に関する最古の文書を含む興国寺の寺宝



歴史的価値の高い2巻

紙本墨書興国寺文書

上野

興国寺の南北朝時代から近世にわたる古文書を2巻にまとめたものです。足利尊氏やその弟・直義の奇進状など、室町時代に全国66か国に作られた安国寺に関する最古の文書が収められ、学術的にも大変貴重な文書です。この内容から室町時代末に寺号を改号したことが確認でき、南北朝時代以降、大内氏、細川氏、小笠原氏など、歴代の有力者や藩主が興国寺を庇護した様子を知ることができます。



尊氏が枝の枝を切り、逆さに地中に挿して戦運を占ったという興国寺境内の墨染校。墨染校に感銘した歌歌も興国寺文書に収められている。右は細川藤実、左は小笠原忠貞

興国寺開山、無隠元晦の迫りくる骨肉の像



水晶の目が輝く

木造元晦禅師坐像

上野

元の国に渡って名を馳せ、帰国後、官寺最高位の南禅寺住職などを歴任した興国寺開山、無隠元晦の像です。南北朝時代の檜材の奇木作で眼は玉眼、彩色が施されています。禅宗では祖師を重んじ、その姿を現した彫刻を頂相彫刻と呼び、他宗派の肖像彫刻と区別しています。残念ながら作者は不明ですが、数ある頂相彫刻の中でも時代が古く秀逸なもので、今にも動き出しそうな迫力があります。



腹前で法華定印を結ぶ高僧無隠元晦禅師

判読可能な保存と緻密さ、願いが込められた経筒



保存状態が極めて良好

東光寺経筒

市場

市場の東光寺境内から出土したと伝えられる銅製経筒です。中に収められた経典は保存状態もよく、判読できます。平安時代後期から末法思想(仏教の教え)の広がりとともに、経典を地中に埋納することが盛んに行われました。経典を納めた筒形の容器を経筒、経筒を埋納した施設を経塚といいます。東光寺は戦国末期に大友宗麟の焼き討ちで焼失。焼け残った「焼仏」が東光寺に残されています。



小筆で丁寧に書かれている教典の文字。

甘い香りと鮮やかな房で人々を魅了する町花



樹齢500年を超える藤

定禅寺の藤

弁城

樹齢500年以上といわれる見事なフジです。弁城の定禅寺境内にあり「迎接の藤」と呼ばれ、親しまれています。幹周囲約4mの1本の樹によるフジ棚が庭園を覆うように広がっています。毎年ゴールデンウィークのころには1.2mから1.5mほどの房に紫の花が咲き誇り、近隣はもちろん県内外からの花見客でにぎわいをみせます。また、フジは福智町の花としてシンボリックな存在となっています。



定禅寺が藤とされるほど数多くの存在

最古の可能性大、福智修験が刻んだ曼荼羅



約670年前に刻まれた磨崖

方城岩屋磨崖梵字曼荼羅

弁城

岩屋権現境内の岩壁に刻まれた梵字と曼荼羅、銘文からなる梵字曼荼羅です。四印会曼荼羅と呼ばれ、磨崖(岩壁に掘られたもの)としては珍しく、神仏の絵を梵字と呼ばれる文字で表しています。銘文の年号解釈は諸説ありますが、現在は建武2年(1335年)に良聖という僧侶が願主となって完成したとする説が有力です。この説では記年銘のある梵字曼荼羅としては最古の貴重な資料です。



阿彌陀如来と一文字で神仏を表す梵字

豪華な装飾出土品から有力者の墓を連想させる



巨大な石室と石材が特徴

伊方古墳

伊方

伊方古墳は伊方丘陵の東端に位置し、石室が巨大で、石材の大きさが特徴です。発掘調査の結果、直径約32m、周溝まで含めると約34m前後の規模と考えられます。出土品には金銅装(金メッキ)の馬具や須恵器、土師器と呼ばれる土器類があります。築造年代は今からおよそ1,400年前ごろと考えられ、出土した豪華な副葬品から、この地方を治めたかなり有力な人のお墓であったと思われる。



伊方小学校のすぐそばにある伊方古墳

天然分布のない九州本島で、実生の可能性をもつ



霊場にそびえる大樹

岩屋権現の大杉

弁城

スギは本来、わが国固有の1属1種の樹種で、その天然分布は青森県から鹿児島県屋久島まで、九州本島ではアヤスギ・メアサ・ホンスギなど、植栽される在来品種(人為的に植栽された品種)がほとんどです。しかし、岩屋権現の大スギは、在来品種とは形態が異なり、実生によってこの地に繁殖したものと考えられます。樹高36.2m、胸高周囲4.7m、枝下高9.3mで、今なお成長を続けています。



推定樹齢は3百年〜4百年とされる大杉

禅宗様式を色濃く残し、独自性も兼備する観音堂

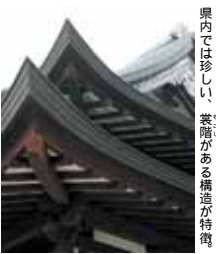


簡素で洗練された建築美

興国寺仏殿

上野

禅宗様式の仏殿は、本来本尊をまつ建物で、禅寺の中でも位の高い寺に採用されます。興国寺では本尊は本堂にまつられ、この仏殿は「観音堂」と呼ばれるとおり、内部の須弥壇上に設置された厨子の中に、千手観音が安置されています。反った屋根や裳階、また、堂内の壁ぎわには禅牀がしつらえられ、仏殿と座禅堂の機能を兼ね備えたものは珍しく、禅宗様式仏殿の貴重な建造物です。



室内では珍しい、裳階がある構造が特徴